

2006年10月2日

各 位株式会社ウイザス
(JASDAQ: 9696)**私立ウイザス高等学校がスポーツコース「ソシオ課程」を開講
スポーツ関連のエキスパートを目指す若者を支援****—オリンピックやワールドカップなどの国際大会で活躍してきたメンバーたちが応援—**

株式会社ウイザス（本社：大阪府大阪市、代表取締役：堀川一晃）の100%子会社である株式会社ハーモニック（本社：東京都中央区、代表取締役：堀川一晃）が運営する広域通信・単位制のウイザス高等学校（本校：茨城県高萩市、校長：田賀谷清三）は10月2日に、特定非営利活動法人や茨城県高萩市の協力の下、スポーツで夢をかなえたいと願う若者たちのためにスポーツコース「ソシオ課程」を開講しました。ウイザス高等学校は、茨城県高萩市が内閣総理大臣から構造改革特区の認定を受けたことで2005年4月に開校した広域通信・単位制の私立高校で、全国(47都道府県)のどこからでも、いつでも入学することができます。

“ソシオ”とは“仲間”とか“共生”を意味するスペイン語で、共に支え合いながら成長していく同じチームのメンバーのことです。ウイザス高等学校スポーツコースの「ソシオ課程」は、さまざまなスポーツシーンを側面から支えるマネジメントやインストラクター、トレーナーといったエキスパート、つまり“スポーツのソシオ”を目指すひとたちのための課程です。アスリートをサポートするために必要とされるフィジカル面からメンタル面に渡る幅広い知識や、近年幅広く注目されている「スポーツスタッフ」を目指すために必要な基礎知識などを学び、卒業後はスポーツ関連を中心に大学・専門学校等の進学を目指します。各種競技で活躍するアスリートのバックアップやスポーツビジネスの運営、生涯に渡ってスポーツに親しむことができる社会づくりや老若男女の健康づくりのサポートといった、さまざまなスポーツシーンで社会に貢献できる人材が求められる中、スポーツと人と社会の関わりを向上させるための知識やセンスを養います。

ウイザス高等学校スポーツコースでは、特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクト（本部：東京都世田谷区、理事長：倉石平）との協力体制から、スポーツコース全体をオリンピックやワールドカップといった数々の国際大会で活躍してきた実績あるメンバーたちの応援を受けています。構造改革特区を活用したキャリア教育の柱のひとつとして、MIP スポーツ・プロジェクトや高萩市とともにウイザス高等学校はスポーツを通じて健やかな心と体を養い社会に貢献できる人材の輩出に取り組みます。

速く確実にスポーツで夢をかなえる、夢を与える

日本とスポーツの関係はまだまだこれからだ、と私たちは思っています。それが進化すれば、この国はもっと多くの優れたアスリートを生み、スポーツに関わる人々やシーンは活気にあふれ、そして誰もが健康で文化的な生涯を送れるよりよい社会を実現できるのではないかと考えています。ウイザス高等学校では、こうした日本におけるよりよいスポーツ社会の実現に少しでも貢献するため、そして何よりスポーツで夢をかなえたいと願う若者たちのためにスポーツコースを創設することにしました。ここでは「ソシオ課程」の他に、来年4月

にはトップレベルのアスリートを目指すひとたちのための「トップアスリート課程」も開講する予定です。

「トップアスリート課程」では、さまざまなスポーツ大会で活躍でき、かつ確かな学力や人間性を形成できるように生徒たちを指導します。当課程では開講と同時に陸上競技とサッカーをスタートさせ、以降にゴルフ、バスケットボール、ラグビー、バレーボールなども始める計画です。

陸上競技については開講と同時に「陸上競技 中長距離・駅伝部」を始動させ、各個人の競技力の向上のみならず、社会人として必要な知識やマナーも指導し、大学・社会人までつながる長期的なビジョンのもとで選手育成に取り組みます。監督には、オリンピック2回出場、10マイルの世界記録をはじめ、数多くの日本記録を樹立し、日本の長距離界を長年に渡りリードしてきた新宅永灯至(しんたくひさとし)氏が就任します。

サッカーについては、高校サッカーの夢の舞台“国立競技場のピッチ”にとどまらず、“世界のピッチ”でも活躍できるプレーヤーの育成を目指します。スキル・フィジカル・メンタルといったあらゆる面での成長をサポートし、チームの勝利と個人の自己実現を可能にする環境を整備し、夢を夢で終わらせない“個人力”を養います(サッカーの指導者については現在、最終調整中です)。

ウイザス高等学校スポーツコースでは、世界を知り、最先端の理論をもとにコーチングできるスタッフを揃えました。さらに、“技能”と一体になる“知性”や“道徳心”の育成については、スポーツコース全体で指導していきます。欧米のアスリートは、積極的にボランティアや社会活動に参加しており、コメントも広い見地や知性、ウィットに富んでいます。プレイやパフォーマンスのみならず、こうした人間性・社会性・セルフプロデュース力といった側面も重視することで、より広い世界で活躍し、社会に貢献し、多くの人々に愛される、魅力あふれる人材を育てたいと考えます。

特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクトとは

MIP スポーツ・プロジェクトは、2001年に誕生した特定非営利活動法人です。日本の、世界の第一線で夢を実現してきたアスリートたちやスポーツに関わる分野で確かな実績を築いてきた文化人たちが、そのゆたかな知識と経験を活かして、「夢を見る楽しさ」「夢に向かって努力することの素晴らしさ」「夢を実現することによる感動」を広く社会に伝え、バランスのよい人間形成に寄与することを目的としています。その活動も、世界トップレベルのアスリートの養成から、スポーツを通じた人間形成、さらに老若男女が楽しめる生涯スポーツの拡充まで、多岐に渡ります。このような主旨のもと、その活動の一環としてウイザス高等学校とのコラボレーションを実施。教育という分野から、日本のスポーツシーンに変革を起こそうとしています。

HP URL > <http://www.mip-sports.com/>

ウイザス高等学校とは

ウイザス高等学校は、2004年3月24日に茨城県高萩市が内閣総理大臣から構造改革特区の認定を受けたことで、2005年4月に開校した広域通信・単位制の私立高校です。全国(47都道府県)のどこからでも、いつでも入学することができます。また、2007年4月より「普通科」から「総合学科」へ移行します。総合学科とは、単位制を基本に幅広い選択科目の中から自分が学びたい科目を選んで時間割を作成し、学習する、高等学校の新しい教育制度です。これにより生徒たちは、進学や就職、その他

それぞれの目標に沿った学習ができ、また一人ひとりの自主性が育まれ、多彩な個性の伸張や社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を身につけることができます。ウィザス高等学校の総合学科では2007年4月開講の普通コースとスポーツコースに続けて、福祉コース、医進コース、国際コースも順次開講する予定です。ウィザス高等学校はこうした環境で、“最短で確実な”高校卒業を目指しながら、“将来を前向きに”、“今を本気で生きる”生徒を育む「将来設計教育」を実施しています。
HP URL > <http://www.with-us.ed.jp/>

株式会社ウィザスとは

株式会社ウィザス（JASDAQ:9696）は、総合教育サービス企業として以下のサービスを中心に全国で活動しております。

(1) 幼児から高校生までを対象とする教科学習指導・進学受験指導ならびに能力開発指導を行う「学習塾事業」

(2) 高校卒業を国が認定する「高等学校卒業程度認定試験(高認)」の受験指導・進路指導の「予備校事業」および通信制高校に在籍する生徒の学習を支援するための「サポート校事業」

「"社会で活躍できる人づくり"を実現できる最高の教育機関をめざす」というコーポレートビジョンを掲げ、単に生徒のみならず、社員、スタッフをふくめ、将来に興味、関心を抱かせ、今を本気に、今を元気にする将来設計教育を機軸に“社会で活躍できる(貢献できる)人づくり”に全企業活動をコンセントレートし、日々その実現に努めております。

HP URL > <http://www.with-us.co.jp/index.html>

本件に関するお問い合わせ先

ウィザス高等学校 スポーツコース事務局

担当： 関口(せきぐち)、竹下(たけした)、氣田(きだ)

住所： 東京都中央区銀座4丁目2番15号 塚本素山ビル(〒104-0061)

電話： 03-3538-2781(株式会社ハーモニック内)

FAX： 03-3538-1933

メール： takahagi@with-us.ed.jp

以上

「構造改革特区」と株式会社による学校設置

「構造改革特区」とは、特定の地域にだけ全国一律の規制とは違う制度を認める仕組みのことです。期待されている効果としては、特区の成功事例により、全国的な規制改革に波及させ、国全体の経済を活性化、地域の特性・ニーズに応じた多種多様な取組みにより地域経済が活性化、などがあります。

特に株式会社等が学校の設置主体となることが認められたことで株式会社が大学や専門職大学院を開校して、高い専門性を持った人材を輩出し、卒業生や科目履修生から多数の起業が期待され、地域の活性化につながるが見込まれています。現時点で株式会社等による学校設置は、全国で31の地区に広がっています。

参考：わがまち元気サイト（HP URL > <http://www.wagamachigenki.jp/saisei/index.html> ）

スポーツコースを応援する「MIP スポーツ・プロジェクト」メンバー（順不同）

● バスケットボール

倉石 平（特定非営利活動法人MIPスポーツ・プロジェクト 理事長、早稲田大学スポーツ科学部 助教授、NBA 解説者）

桜井 康彦（元中央大学バスケットボール部 ヘッドコーチ）

萩原 美樹子（元バスケットボール日本代表）

● バレーボール

杉山 明美（元バレーボール日本代表、神戸ユニバーシアード金メダル）

広瀬 美代子（元バレーボール日本代表、ロサンゼルスオリンピック銅メダル、1981年バレーボール・ワールドカップ最優秀レシーブ賞）

大谷 佐知子（元バレーボール日本代表、ロサンゼルスオリンピック銅メダル）

廣 紀江（元バレーボール日本代表、ロサンゼルスオリンピック銅メダル）

大竹 秀之（元バレーボール日本代表、バルセロナオリンピック出場）

● サッカー

戸塚 哲也（元サッカー日本代表、FC岐阜 監督）

菊池 利三（元サッカー・オリンピック代表、東京ヴェルディ 1969 公認支部ヴェルディサッカースクール岩手・花巻 代表）

藤島 信雄（元サッカー日本代表 主将）

● バドミントン

片山 卓哉（元バドミントン日本代表、世界ランク最高 19 位）

渡辺 哲義（特定非営利活動法人大阪トリッキーパンダース・スポーツクラブ 代表、元西日本電信電話株式会社バドミントン部 監督）

● ラグビー

相澤 雅晴（特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクト 事務局長、第 1 回ラグビー・ワールドカップ 出場）

大西 一平（日本アイ・ビー・エム株式会社ラグビー部 ヘッドコーチ）

中竹 竜二（早稲田大学ラグビー蹴球部 監督）

武藤 規夫（元株式会社神戸製鋼所ラグビー部、元ラグビー7人制日本代表）

元木 由記雄（株式会社神戸製鋼所ラグビー部、元ラグビー日本代表）

● 水泳

錦織 篤（元競泳・背泳ぎ日本代表）

青山 綾里（元競泳・バタフライ日本代表）

● アメリカンフットボール

安部 奈知（元アメリカンフットボール日本代表、第 1 回アメリカンフットボール・ワールドカップ優勝）

● **野球**

南牟礼 豊蔵（元プロ野球 阪神タイガース外野手）

大越 基（元プロ野球 福岡ダイエーホークス〔現福岡ソフトバンクホークス〕外野手）

松沼 雅之（元プロ野球 西武ライオンズ投手）

村上 信一（元プロ野球 オリックス・ブルーウェーブ〔現オリックス・バファローズ〕外野手）

● **陸上競技**

渡部 近志（特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクト 副理事長、元 110m ハードル日本代表）

金 哲彦（特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクト 理事、特定非営利活動法人ニッポンランナーズ 理事長）

● **卓球**

渡辺 武弘（元卓球日本代表、ソウルオリンピック・バルセロナオリンピック出場）

川村 公一（元卓球日本代表、元健勝苑卓球部 監督、卓球解説者）

岡崎 恵子（元卓球日本代表）

森本 文江（元卓球日本代表）

● **ソフトテニス**

皆呂 充亮（株式会社スポーツナロ 代表取締役、ソフトテニス解説者）

● **アスレティック・トレーナー**

土井 龍雄（特定非営利活動法人 MIP スポーツ・プロジェクト 理事、医療法人貴島会ダイナミックスポーツ医学研究所 副所長）

陸上競技 中長距離・駅伝部 監督について

新宅 永灯至（しんたく ひさとし）

1957年12月20日、広島県生まれ。

広島県立西条農業高等学校から日本体育大学に進学し、トラック競技で活躍。在学中から多くの国際大会に参加。1977年、ユニバーシアード第9回ソフィア大会で3000m障害物に出場。1978年、第8回アジア競技大会（バンコク）では3000m障害物で金メダルを獲得。この1ヵ月後に箱根駅伝に出場し、日本体育大学の総合優勝のけん引役として活躍。1979年に国立競技場において3000m障害物で出した記録8分25秒8はいまだに2番目に古い日本学生最高記録として残っている。

1980年に日本体育大学を卒業。中村孝生、瀬古利彦らとアスビー食品に入社。この3人だけで東日本実業団対抗陸上競技大会に出場して団体優勝する。また、1984年から1988年の全日本実業団駅伝4連覇にも大きく貢献した。個人でも1980年の3000m障害物で8分19秒52の日本記録を出し、2003年に岩水嘉孝に抜かれるまで23年間破られなかった。モスクワオリンピックの3000m障害物・5000m代表にも選ばれたが、日本が大会をボイコットしたため出場はできなかった。

この間、1982年に第9回アジア競技会（ニューデリー）の5000mで金メダル、1984年のロサンゼルスオリンピックでは10000mに出場した。その後、1986年の第10回アジア競技会（ソウル）では5000mで銀メダル、10000mで金メダルを獲得している。

1985年にマラソンに転向し、同年の福岡国際マラソンで優勝を果たす。1987年の福岡国際マラソンでは中山竹通に次ぐ2位となり、ソウルオリンピックのマラソン代表に選出される。3大会連続のオリンピック代表だが、それぞれが異なる長距離種目での代表選出だった。

1990年にアスビー食品を退社し、1991年に大正海上火災保険株式会社（現三井住友海上火災保険株式会社）に入社、同社の陸上競技部の監督を兼任する。同男子陸上部が2005年に休部するまで監督を務めた。

競技記録としては、日本選手権の長距離4種目で13度優勝（歴代最多記録）3000m障害、3000m、5000m、15000m、ハーフマラソンでは当時の日本記録を残し、30000mでは世界記録を樹立した。現在でも10マイルの世界最高記録を保持している。

参考：オンライン百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」